

## 第 371 回 昭和の森自然観察会

### 早春の生き物たち

長江英子（千葉市）

日時：2023 年 3 月 12 日（日）10 時～12 時 天候；曇り

参加者：20 名（大人 9 名 子ども 11 名）指導員：7 名 会員 1 名 他 1 名

担当指導員：武田・長江

やや曇り空の寒さの残る観察会となりましたがあちこちに春が動き出していました。参加者は 4 歳から小学生まで 10 名の子どもたちを含め 20 名。2 班に分かれコースをずらしてスタートしました。スタートのあずまや近く、アカシデとイヌシデの大木に雄花穂が垂れておりアカシデは赤く、イヌシデとの違いを見ました。落ちていた今年のそれぞれの果実を見つけ 形の違いを観察。雌花穂は？ 本年枝に着くのでまだ伸びていません。そこから広場の先のオオイヌノフグリが一面に咲く場所に。子どもたちは虫を見つけるのが得意。子どもの掌にはテントウムシ？ いやちょっと細身です。後でイタドリハムシと確認。コガタルリハムシは食草のギンギンに何匹も。アオゴミムシも。クモを追いかけ小さな虫に逃げられ、子どもたちにはたまらないオオイヌノフグリの広場でした。滑り台の斜面では、みごとなコブシの大木が満開、足元にはタンポポが咲いていて、在来種？ 外来種？ の質問に早速小学生がカントウタンポポと答えてくれました。

タチツボスミレも咲き出しています。フキノトウの雌花と雄花があることなど説明。杉林を過ぎ、カタクリ斜面へ。カタクリの開花までを資料を使って説明。開花も間近です。またカタクリに交じってツクバトリカブトもキツネノカミソリの葉も茂っています。いよいよ田んぼへ。ニホンアカガエルの卵塊の数今年 325 塊。他のカエルよりいち早く産卵し 1 回のみ。メスのカエルは約 1,000 個の卵を産みまた山に戻り二度寝?!（春眠）。オスはメスの 4, 5 倍いることや吸盤がないことを説明。卵塊のほとんどがオタマジャクシにかえったばかり、子どもたちはオタマジャクシにふれたり、メダカやホトケドジョウを見つたりカワニナを覗いたり、環境維持の大切さを確認しました。

その他、鉢植えの在来種のイヌノフグリで、外来種のオオイヌノフグリやフラサバソウとの違いを確認。ナズナで遊び、ツクシとスギナの関係やアオキの雌雄異株を蕾で確認したりシュンランやキランソウを道々観察したりしました。

参加者の感想はツクシとスギナの関係を初めて知った。虫がたくさんいて面白かった。外来種が多くなっていると感じた。子どもは生き物を自分で見つけたがっていた。などでした。若い家族が多く、見つける楽しさを知る良い機会となりました。



オタマジャクシとカワニナに見入る